

# 一般質問

6月議会では、15名の議員が市政に対して、一般質問を行いました。

議会だよりでは、一般質問の要旨を各議員の文責において掲載しておりますが、紙面上、文字数に制限があり、なかなか思いや考えを伝えることができません。しかし土岐市ホームページでは、インターネットによる議会映像の配信や定例会・臨時会の会議録を掲載しています。ぜひアクセスして、詳細をご覧ください。

## アクセス方法

### 視聴の場合

土岐市ホームページ ⇒ 市議会 ⇒  
 議会ライブ中継 ⇒ 本日の議会中継  
 ⇒ 過去の映像 ⇒ 一般質問

### 文書の場合

土岐市ホームページ ⇒ 市議会 ⇒  
 議会会議録検索 ⇒ 会議録検索システムへ

◆ 未来を築く三つの約束について  
 ① 強いまちづくりについて、財政基盤の安定化を図るための財源をどのように確保するのか。  
 ② 25年度の決算における企業誘致関連の税収は合計しますと、誘致企業で約7億4千万円位。そして新規の3か所で4億3千万円位の税収があったわけであります。このように市税収入を上げていくことが財政基盤の安定につながると考えております。  
 ③ 元気なまちづくりについて、各区のまちづくりをどのように考えているのか。  
 ④ 行政の役割は基盤整備でありますので、道路網が一番大事だと考えています。各地区の道路をいかに整備して、流通をよくするかだと考えます。例えば妻木地区の区画整理事業では、その中を通る街路事業というのが非常に重要でそういう事業の進捗、さらに大事なことは、住民の皆さんの力をいかに行政とタイアップして進めていくかということであります。簡単に言えば協働ということ



○ 杉浦 司美 ○

になります。みずから住民の方が動いて、いろいろな提案をしていただいて、その中でやっていくというのがこれからのまちづくりだと思います。地域の皆さんに知恵を絞っていただいて、お金の分では行政が負担するのですが、人的資源とか、知恵とかは、地域の皆さんが話し合って提案していただく中でまちづくりを進めていきたい。基本的には、各地区の大事な施設とか、基盤整備、そういうものが必要ならば、どんどんこれからもやっていきたい。  
 ⑤ 優しいまちづくりについて、認定こども園の今後の整備計画について。  
 ⑥ 昨年度末に土岐市子ども・子育て支援事業計画を策定しており、それののちとって進めてまいります。今のところある程度の優先順位は決まっておりますが、いろいろな課題があり、場所の選定とか、地域の皆さんの意見とすることがありますので、やはり耐震化というのが一つのキーワードとなります。耐震化が0.6以下のところ、Is値が0.6以下のところを優先的にやるという方針は大前提で、下石地区と泉地区はまずは優先的になります。最終的には、私立保育園のあるところは除いて、各学校区に一つの認定こども園を整備していきたい。



水野 哲男

◆濃南地域の安心・安全について  
 〈消防団中核拠点施設の整備〉

◎消防団は、郷土愛護の精神で、市民の生命、身体及び財産を火災その他の災害から守り、被害の軽減に努めるよう活動されており、地域の安心・安全には欠かせない存在である。しかし、地域に定住する若者の減少や意識の変化により消防団への加入者が減少し、団員の確保に苦慮している現状である。

また、濃南地域は市内で最も人口減少、高齢化が著しい地域である。そんな中で、土岐市消防団濃南分団は、平成21年度に鶴里分団と曾木分団に統合されたが、活動の拠点となる消防団の詰所がいまだに鶴里町と曾木町に分かれており、団員や消防車両等の機材の管理や、団員相互の信頼関係の確立に支障をきたしている状態が続いていると地元から聞いている。

土岐市内の中核拠点施設の整備状況を見ると、当地域を除く各町ではすでに整備が完了している。

こうしたことを踏まえ、濃南分団の中核拠点施設は必要不可欠と考えるが、整備の必要性について市はどのように考えているのかお尋ねしたい。

◎消防団中核拠点施設の整備については、平成25年12月施行の消防団を中心とした地域防災力の充実・強化に関する法律により、消防団の活動拠点施設の整備に努めるよう定められている。土岐市においては消防団の活動拠点施設の整備は進んでおり、平成14年度完成の泉分団の中核拠点施設を皮切りに、6分団での整備を終えている。

濃南分団については、中核拠点施設がなく、さまざまな面で支障が生じていると聞いているので、その必要性については十分認識しており、今後の検討課題として進めていきたい。



▲消防操法大会（濃南分団）

《第3回定例会一般質問》



山田 正和

◎地場産業について。  
 新たな公共工事で陶土が出た時の有効利用の考えは。

◎公共工事につきましては、基本的に工事の設計の段階から土量バランスを考慮した設計とするなど残土を発生させないことが基本です。しかし建設現場の状況によっては、建設残土が生じる事例も想定されます。

その際には、一定の基準、あるいは適正な受け入れ地について適正な管理のもと、埋め立てを行うということが基本です。しかし窯業資源の今後が心配されている昨今でございますが建設残土に良質な原料が認められるような場合は、これらの活用も考えていかなければと考えておりません。適正な方法のもと再資源化できないか今後の検討課題とさせていただきます。東濃西部広域行政事務組合議会において、3市の市長が合意のもと、3市共通の地場産業である美濃焼の原料問題に共同で取り組むということにいたし、昨年12月、美濃焼みらい会議が開催さ

れ、今後も行政として、窯業原料に関する情報の共有に努めるとともに、行政の立場で支援できる事があれば、そういったことを協議させていただきたいと考えています。

◎土岐津幼稚園について。

3歳児からの受け入れについて土岐津地区では、3歳児、4歳児が入園できる幼稚園はなく土岐が丘もでき、幼稚園児も増え、保育園は共働きではない両親などの保育料は大変高額になり、他地域にある幼稚園に入園している人も多い。地元に入園できないのか。

◎土岐津幼稚園で3年保育を实地し、私立保育園との共存を目指し土岐市全体の幼児教育、保育ニーズの把握に努め、3歳、4歳児の受け入れ施設を確保するために協議継続してまいります。

◎病後児保育について。

施設を使いやすくしてはどうか。診断書は必要なのか。

◎子供さんを預かる以上、責任をもって預かる必要がございます。例えば急変に対して対応できるようにする事こそ一番だと思います。



北谷 峰二

◆日本の和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、和食が世界でも注目をされるなか焼き物を新たな視点でPR活動を出来ないだろうか。

問 学校給食に取り入れてのPRは。

答 高強度磁器を3種類から4種類に増やしており一日2万2千4百枚の洗浄をしており月に一度であれ織部志野黄瀬戸の食器を使うとなると別の洗浄ラインや保管スペースが必要となり現施設設備では難しい状況。また、家庭から持ってくるということも保護者さんの負担ともなり困難な状況である。

● 困難を乗り越えてやってもらえると土岐市のPR、地元産業を土岐市は大事にしている、子供からそういう教育をさせているんだなあとお脚光を浴びると思う。残念です。

問 観光協定を結んでいる大学生さんに協力してもらいPR。プラスチック製プレートと織部・志野や黄瀬戸の器で同じ料理をそれぞれ盛り、食べ比べてもらい、味覚だけではなく

視覚から得られる料理の味わいも比較してもらおうことによるPR活動は。現在行っていないが、提案として受け止めて頂きます。



◆ 定住人口を増やすための取り組みについて。

問 限られた財源で効率良くシティブロモーションするにはセグメント化が必要では。

答 現在、市や県のホームページや、一般財団法人の移住交流推進機構が運営するホームページにJOINニッポン移住・交流ナビというものがあり情報発信している。シティブロモーションというターゲットを絞り込んだ形での取り組みをしていないが、今後地域戦略等を策定していく段階で一つのキーワードになると理解し検討していく。

### 《第3回定例会一般質問》



加藤 辰亥

問 交通渋滞や交通事故をなくすための施策はどのようなものでしょうか。

答 まず、通学路については、交通安全の対策を全面的に整備する事業として、平成15年に泉小学校、泉中学校、そしてJR土岐市駅を含む1km四方について、歩行者、自転車を対象に、危険のあるところや自動車の交通事故が多いエリアとして「安全歩行エリア土岐市泉地区」の指定を国土交通省と警察庁から受けまして、平成19年、20年度にエリア内の約2kmの市道につきまして、側溝整備及びカラー舗装、電柱移転などを行いました。

その効果につきましては、整備終了後、平成20年の12月に泉小学校の児童に対して小学校周辺の道路について、「整備前に比べて歩きやすくなったか」、「整備前に比べて歩きやすくなったか」という2点についてアンケート調査を行いました。

その結果ですが、「整備前に比べて歩きやすくなったか」に対しては、「69%が歩きやすくなった」「31%が

前と変わらない」、そして「横を走る車が怖くなったのか」に対しては、「49%が怖くなった」「51%が前と変わらない」という結果があり、一定の効果はあらわれていると確認しています。

その後、市道の通学路につきましては、平成20年度に各小学校の通学路の現況調査と整備計画を策定し、順次、側溝整備やカラー舗装などを行ってまいります。今年度は妻木小学校の通学路においてカラー舗装などを行う予定でございます。

また、通学路以外の一般市道についての渋滞対策、交通安全対策についてお答えします。

市道全般の渋滞対策、交通安全対策につきましては、市道の新設改良事業というのと交通安全対策事業というのがあると思います。

最近では新設改良事業としましては、平成23年11月に完成しました庚申山神線につきましては渋滞緩和と交通安全に寄与していると考えています。

また、交通安全対策事業としては、カーブミラー、ガードレール、区画線の設置等の安全対策を行ってまいります。



後藤 久男

◆認定いずも園の設置について

問市内何か所に設置するのか、またいつから開始されるのか。

答土岐市の子ども・子育て支援事業計画の中で、市内に7か所の整備計画がある。濃南地区は、既存の施設を認定こども園化していく。

問何故、毎年利用者が増加する歴史ある大徳原球場なのか、また、多くの市民が反対をしているのに建設する必要があるのでか。

答泉校区の幼稚園、保育園に通う270人ほどが収容できる施設として、建設に見合った土地で、定林寺の西濃運輸跡地、河合の旧清掃センター跡地、大徳原球場を選定したが、大徳原球場が最適地と判断した。

問大徳原球場の代替案は。

答総合公園のナイター使用料の引き下げ、環境センターの隣接地に簡易なフェンス等の整備、敷島野球場の整備を議論してきた。

◆空き家対策特別措置法について

問空き家対策特別措置法の全面施行に伴う市の対応について。



答一義的には、所有者等がみずからの責任によりの確な対応が大前提だが、相談体制の整備・有効活用を図る一方、周辺環境に悪影響を及ぼす空き家等は必要に応じて立入調査を行うつつ、所要の措置を講ずる。

問撤去や修繕に向けて所有者などに指導や勧告・命令するのか。

答特定空き家と判断した場合、除去・修繕・立木の伐採・その他周辺環境の保全を図るために必要な措置をとるよう助言指導を行い、改善されない場合には、猶予期間を設け、措置をすることを勧告する。

問県空き家管理業協会が設置されたが、市内の業者は加入してみえるか。

答土岐市の事業者は加入していないが、適切な管理について、相談・問い合わせがあった場合は紹介していく。

《第3回定例会一般質問》



小関 篤司

◆教育について

問外国籍生徒が急増した学校で、日本語が分からず、騒いだりする状況がありますが、語学支援が必要な生徒を集めた教室で、初期日本語指導する方法はとれないか。

答(対象生徒が)増えているので、今後検討材料として考えていきたい。

問給食費の無料化、一部補助は岐阜県内で7か所、土岐市ではどうか。

答基本的に財源という問題、感謝や勤労の気持ちを養う側面があり、給食費の徴収を考えていきたい。

◆職員の雇用について

問土岐市の保育士の割合において、半数以上が非正規の方です。正規職員と同じく、担任を持っている方を、同一労働、同一賃金で、正規職員への転換は考えてみますか。

答僅かですが、勤務時間が異なり、責任においても当然異なり、全くの同一労働ではないと考えています。

●最近のある記事では、ある県で看護師6人の一斉辞職があり、全て非常勤、組織として受け止め不十分だ

ったそうです。

継続可能な運営のためにも、職員要望を受け止めてほしいです。

◆子育て支援について

問泉町の保育園統廃合について、選定場所や統廃合の問題で住民合意が取れず、計画の遅れがあります。統廃合はやめて、いずみ保育園は小規模で近郊に建て替え、みつば保育園は、耐震補強する選択肢は。

答子ども・子育て会議の中で再編を定めており、今すぐ大幅変更する考えはございません。今後、計画に時間がかかれば、可能な範囲で耐震補強工事のような方法を検討する。

問高校卒業までの医療費無料化ができる、市長の言われる強い市とは。

答財政力指数0.6くらいの土岐市が全てやると、やらなくてはならない財源が回らなくなります。

